
絢爛穢土

N澤巧 T 郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

絢爛穢土

【Nコード】

N8277A

【作者名】

N澤巧T郎

【あらすじ】

僕とそよ風が出会ったとき、世界は一変する。

純白の空が顔を覗かせると、切り裂くようなそよ風が僕の前方から追し寄せてくる。そよ風は痛いほどやさしい感触を残してはるか後方へと前進して行った。

僕の心に残ったその感触は今でも僕の一番大切な場所に、丁寧に投げ捨てられている。それが再び水色の光を受ける時は来るのだろうか。仄かに明るく、そして火傷するような冷たさの中で。

鼻を突くようなやわらかい匂いがした。多分それは、僕の周りで枯れようと必死に咲き続ける花々のせいだろう。くすんだパラルカラーを纏ったそれ達は、浄土色になった空に何を見ているのだろうか。

痛いほどの希望に身を震わせる自分か。それとも、朽ち果てた栄光の姿をした自分なのか。彼らは耳が痛くなるほどの無言で答えた。僕は鼻をつまみながら耳を塞ごうとした。しかし、それを行うことは、輝きながらくすむ様に、淀みながら透き通るように簡素な難しさがあつた。

だから僕の耳にはふんわりした痛みが襲い、僕の鼻には突き刺すようなやわらかい匂いが襲った。

僕は思わず瞼を閉じ、眩い世界へと逃げ出した。

しかし、暗闇は僕とは反対方向に僕を追いかけて続ける。それが僕には子守唄のように怖かった。だから僕も誰にも聞こえないような大声で歌った。

歌が鼻歌を歌いながら一心不乱に四方八方へと紆余曲折していく。黒く眩い世界は一瞬にして黒と白だけのカラフルな世界へと、以前となんら変わらない姿へ変貌して行った。

僕は我先に恐る恐る瞼を開け、乳白色の世界に迷いながら溶け込んだ。

そこには、今まで見たことない懐かしい景色がはつきりと滲んで

いた。

「ああ、僕は……僕はこのために……」

玲瓏な雫が目から毀れ上がった。整然とした騒がしさの中に、僕はただただ立ち尽くしているだけだった。

それはあまりにも勇敢で、無残な面影を残した夕暮れだった。

朝日は沈み、夕日は昇っていたのだった。

そのことをたった今、僕は初めて知ったのだ。

それが、僕に残された唯一の煩瑣だったのかもしれない。

何も見えない暗闇の中、僕を見た人は出会っただろう。

些細なことで逃げ出してしまう勇気を大事に振り回しながら。

理想から逃げずに立ち向かうその弱気を乱暴に抱き締めながら。

あなたと僕は出会ってる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8277a/>

絢爛穢土

2010年12月13日18時08分発行